

# めぐりつと紫波

## 🔄 第2回 循環型まちづくりに真に必要なもの

地域パートナーシップ支援センター 小野紀之（日詰在住）

環境を守り、人々が安心してこれからも暮らしていけるまちを誰もが望み、それを実現するための施策のひとつが“循環型まちづくり”です。そして、紫波町でも循環型社会の構築に向け、平成12年6月に「環境新世紀」イベントが開催されました。

私たちは豊かさを追求するあまり、これまでこの循環をいくつも分断してきました。そして、そのしくみを修復しなくてはならないことも十分承知しています。しかし、その目的を“地球環境のため”と言われてしまうと「私なんか今さらやっても・・・」と誰もが考えてしまいます。そこで紫波町は、明快で具体的な地域目標を設定しました。有機資源循環においては、「子どもたちに安全な食を」。町から出る有機資源を堆肥にして、米や野菜づくりに活かす。そして、そこで収穫された有機作物を都市圏に出荷するのではなく、まず自分たち、特に子どもたちに安全な食として提供することを宣言したのです。また森林資源の循環では、単に資源循環にとどまらず、経済の循環という新たな発想を取り入れて、小学校を地元の木材、地元の業者で建設してしまったのです。そのチーム力は、オガールプロジェクトへと引き継がれました。

環境啓発において、常に身近に迫った地球環境問題を取り上げ、そのために行うべき一人一人の行動の大切さが訴えられてきました。今、そのことを疑う人はいません。しかしながら、具体的な行動に移せるかどうかは話が別です（ほんとうはそうであってはいけないのです）。そこで紫波町は、未来の担い手であり、かけがえのない子どもたちのために具体的な行動の実践を呼びかけたのです。



木造施設 紫波町立上平沢小学校

その成果は、協働による循環型まちづくりとして、平成15年「循環・共生・参加まちづくり表彰」で環境大臣賞を受賞するまでになりました。この子どもたちの未来を思うやさしさ、人とひととのつながりの大切さを思い出せたからこそ、日本のモデルとして表彰の榮譽を授けられたのではないのでしょうか。

来年は、「環境新世紀」から20周年を迎えます。環境だけにとられることなく、人としてのこころのありかた、生き方に基づいたこれからのまちづくりをもう一度初心にかえって考えてみてはどうでしょうか。国連でも「持続可能な開発目標（SDGs）」において、経済・社会・環境について、2030年までに誰も置き去りにしない実現を発表しているのですから・・・。



木造施設 オガールプラザ

めぐりつと紫波では2020年の“新世紀未来宣言”20周年を前にして、町が取組んできた「循環型まちづくり」を確認し、さらにこれからの課題について6回シリーズで掲載していきます。



# 夏に行われた環境学習プログラム

紫波町の環境団体で構成されている「しわエコ連絡会」では、環境学習プログラムを作成し、毎年、小学校をとおして、子ども会の行事に活用していただいています。その様子をご紹介します。

## 〇ゴミ分別説明会

紫波町環境衛生組合連合会と環境マイスター紫波が担当しました。

なぜ、ごみの分別をするのか、今のごみ処理の方法、どれくらい回収されているのか、自分たちにできることは何なのか、わかりやすく説明しています。



## 〇水生生物観察会

環境マイスター紫波が担当しました！

小学校の出前講座を中心に、町内の川で児童と一緒に水生生物調査を行い、その結果、より身近な水環境を学習しました。

対象は、小学3年から6年生です。



今年度は、長岡小学校を始め、水分小学校、赤沢小学校、赤石小学校の出前講座を行いました。

## 〇コネコネマイ石けん

NPO法人紫波みらい研究所が担当しました！

コネコネマイ石けんは、飲食店から回収された使用済みの植物性食用油を精製し、合成界面活性剤などの合成物質を含まない無添加石鹸として生まれ変わったものです。石けん素地が柔らかい状態に入っているため、粘土感覚でお好きな形のせっけんを造ることができます。日陰に置いて固まればできあがりです。



■環境学習プログラムは紫波みらい研究所までお問合せください。



## 第29回 環境探検隊 ～水と光のシャワーをあびて！～

7月27日(土)、水分地区の沢内川で「環境探検隊」を開催しました。

東根山の南側を流れる沢内川は平成25年8月、紫波町を襲った局地的豪雨により川が氾濫、流木等で大きな被害を受けました。

紫波みらい研究所では、復旧工事が終わった平成28年の夏から、被害を受けた川に生き物が戻ってきているかどうか確認するため、町内の親子を対象に環境探検隊を行いました。

そのほかに川周辺の自然観察と川遊びや滝登りをして楽しみました。次回は、10月26日(土)秋の野山で開催の予定です。



## 2019あかざわ川自然学校

日程:2019年7月28日(日)晴れ  
参加者:18家族55名  
(大人25名 小人30名)

赤沢公民館近くの赤沢川で水生生物の観察会を行いました。晴れ時々曇り、気温は32℃というコンディションの中、子供たちが網を手にして水生生物の捕獲や観察に興じる姿が見られました。

今年もきれいな水、ややきれいな水に生息する生物が多く採取される中、カジカが21匹も採取されて子供たちは大喜びでした。赤沢川でカジカは、しばらく見られない状況でしたが昨年1匹採取することができ、今年はさらに数多く採取出来たことは、以前の赤沢川の状態に戻っていることを意味するもので、大きな成果でした。アンケートでは、子供が自然に触れることが少なくなっている中、家族で楽しめたという保護者からの回答が寄せられ、自然学校の目的が十分に達せられていることがうかがわれました。



## ■環境マイスター養成講座を開催中です！

めぐりっと紫波6月号でも受講生を募集しましたが、8月末時点で全6回中4回の講座が開催されております。今回はその様子の一部を紹介します。



### ■水生生物による水質調査 (第一回・滝名川にて)

透視度が高く、濁りのないきれいな水で、川の中に住む生物もきれいな水に生息するものばかりでした。

### ■循環型のまちづくり (第二回・紫波町役場会議室にて)

紫波町の目指すまちづくりやそれに向けて実際に取り組んでいる内容を学びました。



### ■紫波浄化センター見学 (第三回)

汚水処理の過程を実際に見学しました。脱水汚泥は緑化基盤材や肥料として有効利用されます。

### ■おひさま発電事業施設見学 (第四回・紫波中央駅にて)

紫波中央駅や小学校などに太陽光発電システムを設置しています。普段から目にしている場所ですが、気付いていなかったという声も聞かれました。

